

会 議 記 録 (1)

会議名称	令和7年度第2回北本市文化財保存活用地域計画策定協議会
開会及び 閉会時間	令和7年8月20日(水) 午後2時00分開会、午後4時00分閉会
開催場所	北本市文化センター 3階 第1・2会議室
議長氏名	松本富雄
出席委員 (者)氏名	松本富雄、須田大樹(飯田徹代理)、小松政毅、堂本泰章、加藤祺、 林田幸子、坂口修
欠席委員 (者)氏名	秋葉清
説明者の 職 氏 名	教育部参事 磯野治司、教育部文化財保護課長 大平洋佑
事務局職員 氏 名	教育部参事 磯野治司、教育部文化財保護課長 大平洋佑、 同主査 坂田敏行、同主事 船山ちひろ、佐藤豪大
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 北本市文化財保存活用地域計画案の検討について 4 その他 5 閉 会

会 議 記 録 (2)

配布資料	資料 1 北本市文化財保存活用地域計画案(R 7. 8. 1 4 時点) 資料 2 「北本市文化財保存活用地域計画」写真サムネイル
------	---

会 議 記 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容・決 定 事 項
	司会進行 教育部文化財保護課長 大平 洋佑 1 開 会 教育部文化財保護課長 大平 洋佑 2 あいさつ 松本会長からあいさつ 3 議題 (1) 文化財保存活用地域計画案の検討について
事務局(磯野)	配布済資料を用いて、前回からの修正・加筆箇所を説明。
小松委員	p. 17 で消滅可能性都市に位置づけられたとの記述があるが、現在は脱却しているので、その旨は触れた方がいいと思う。p. 35「② 動物・植物・地質鉱物」で石戸地区のドウダンツツジに触れられていないが、現状どうなっているのか。また p. 39「民家建築」の関連で、ドウダンツツジのある家の母屋の現状を教えてほしい。
事務局(磯野)	p. 17 の消滅可能性都市は言及するかどうか検討中である。
松本会長	消滅可能性都市は定義のあり方や分析の根拠がどうかという問題もある。この言葉を記載するかどうかから検討すべき。
事務局(磯野)	ドウダンツツジについては状態が悪いため、現状は触れないようにしている。また、小島家住宅については、文化財保護課としても保存を考えていたが、所有者により既に母屋は解体されて残っていない。
小松委員	未指定の文化財についてだが、文化財の範囲、特に年代をどう考えているのか。
事務局(磯野)	明確な線引きはしていない。文化財の定義は広くとっており、地域の特色を物語る地域文化資源、人の交流・活動までも含めている。年代等の線引きをすることで重要なものが漏れてしまうことを危惧している。 民具については、昭和時代までの生業・生活・信仰など多岐にわたるものを収集してきたが、数が膨大になっており、収集を控える方向でもある。現状、活用がきちんと図られていないという点は反省点としてある。

松本会長	民具学会は、図面化されていないもの、同じものが量産されていないものを民具と定義している。なんでもという大変な数になるので、地域ごとの特性を持つ民具を収集していくという方針、例えば北本であれば麦づくりをテーマするなどして、整理していく方向が考えられると思う。
加藤委員	使わなくなった道具は、やがて薪になっていく感覚。維持していくのにもお金がかかる。懐かしいという思いだけで維持するのは難しいのが本音。
事務局(磯野)	特色のある民具はあるので、有効に利用する方向性を考えたい。なお市役所には将来的に史料になりうる行政文書があるので、リスク評価をしたうえで、価値があるものは保存していきたいと考えている。
松本会長	文化財になり切れない資料というがあるので、それらを保存活用の将来像のなかで位置づけていく必要があると思う。
堂本委員	第六次総合振興計画にも文化財関連の項目があるが、本計画にもそれと連動した目標値、達成度の指針があった方がいいのではないか。総合振興計画をみると、もう少し高い目標を掲げた方がいいのではと感じたので。
坂口委員	総合振興計画の考え方としては、5年間で達成可能な現実的な指標を作るところがある。
事務局(磯野)	何を指標とするか、現行計画で指標としているものが実態となじまないという問題がある。具体的な数字で挙げると難しいところもあり、提案があればうかがいたい。
松本会長	学校の授業での活用件数や、公民館な NPO の活動などを数値化することは可能ではないか。ただ、数が上がるか下がるかは本質的な問題ではなく、普及活動を継続していくことが大切だと思う。 堂本委員が指摘した、本計画のなかで達成度の指標を示すことについては、必要があるのか。
坂口委員	本計画はある総合振興計画等の上位計画を達成するための下位計画という位置付けなので、上位計画に指標があれば必要ないと思う。
事務局(大平)	措置の表のなかに重点事業があるが、これらについて総合振興計画の指標とリンクさせて重要度を見直すように検討してみたい。

坂口委員	p. 96 の推進体制の措置表に出てこない課があるのではないかな。
事務局(磯野)	修正する。
堂本委員	全般的な話だが、環境保全・再生はもっと積極的にやっていかないと厳しいだろうと考えている。その意味で、上尾バイパスなどができた前提での書きぶりが不十分に感じる。開発との共存策などの内容が必要ではないかな。
事務局(磯野)	上尾バイパスが通ると、関連文化財群 6-1 が特に大きな影響を受ける。追記するならばここかと思う。
坂口委員	文化財の保存活用の方向性 (p. 60)、課題 (p. 62～) に追記が可能ではないかな。
松本会長	里山・文化財を都市化や開発からどう保護していくのか、どう整合性をとるのかは、大局の部分で書いておくべきかもしれない。
加藤委員	時間はかかるが、カメラを設置し、変化を実感できる定点観測を行っていくのがいいのではないかな。
須田委員	指定文化財の表で旧跡のカテゴリが入っているが、旧跡は史跡に準じるものという位置づけなので、これは遺跡でいいのではないかな。
松本会長	旧跡は埼玉県はどう位置づけているのか。
須田委員	旧史跡という位置づけになる。
松本会長	旧跡の指定にも歴史的背景があるので、残しておいていいのではないかな。それから登録文化財は現状は 0 だが、今後、なり得るものが市内にあるので、登録文化財の項目も立ててはどうかな。
事務局(大平)	明記している箇所があれば、項目は立てなくてもいいという話が文化庁の調査官からあったので、現状はないが、今後のことを考えて立てることは可能。
事務局(磯野)	田島家住宅は国指定の登録寸前までいった経緯があり、今後も一番の候補だと考える。
松本会長	国登録にして古民家を活用する道があるということを知らしめる意味でも、項目を入れるといいと思う。

事務局(磯野)	活用に関する本文中の表現も含め、反映させるように検討する。
須田委員	地域計画を作ると、地元からの提案で国の登録を申請できるようになるので、そのようなかたちで保存活用を進めるのもひとつの手段だと思う。 先ほど述べた旧跡についてだが、遺跡の種別のひとつなので、明記するのであれば遺跡の中をふたつに分けるべきだと思う。
事務局(磯野)	そのように改める。
須田委員	p. 59～61 の里山の定義を一から書くのはなかなかハードルが高いので、既存のものから定義できればいいのではないか。
事務局(磯野)	既にさまざまな文献を参照し、最大公約数的に書いたつもりである。さらにということであれば、文案を頂ければありがたい。
松本会長	了解した。私と須田委員で対応する。
須田委員	第9章のカタクリ自生地 (p. 86) だが、保存活用区域としては狭すぎると感じる。保存活用区域は広くいろいろな文化財を含む地域を設定するのが一般的なので、可能であれば周辺に目を広げてもらいたい。改めてみると、活用区域の2と3を一緒にすることもできるのではと感じた。
事務局(磯野)	2と3それぞれの区域をどう公有地化して保存や活用をしていくかという視点で、実現可能性を考えた狭いエリア設定にした。そうしたことを度外視すれば、広いエリア設定も可能と考える。
須田委員	面的な広がりでエリア設定をして、そのなかで重点的にカタクリの保護をするといった考え方が一般的かと思う。
加藤委員	他の有名なカタクリの自生地と比較すると、非常に狭隘かつ少数で、いいがたい現状だと感じている。
事務局(磯野)	四半世紀にわたって保護活動を進めてきており、カタクリ自体は数が増えて5000株にまでなった。しかし、自生地周辺の環境が悪化しているのは認識している。
堂本委員	現在、水辺プラザのエリアを広げて整備していく検討を進めている。国交省の今の川まちづくりでは、自然の回復や自然とのふれあいも項目に入っており、

会 議 記 録 (7)

	荒川周辺の文化的なものを融合させた新しいまちづくりという取り組みになっている。これを踏まえると、エリアを広げるとやりやすいのかなと思う。
松本会長	エリア設定の再検討は可能性としてどうか。それが難しければ、エリアを広げていくことを視野に入れた書きぶりにしておくのはどうか。
事務局(磯野)	カタクリ自生地と下沼田んぼはまとめることが可能と思うが、薬師堂の湧水群まで入ると、距離や性格の違いもあり少し難しい。検討する。
小松委員	p. 94-95 の文化財レスキューについて、概要を記載してはどうか。認知されたのはここ 10 年くらいと思うので、解説文があった方が良いと思う。
松本会長	私が提供する。それからレスキューについては、微消耗品の充実を 5 番として明記しておいてほしい。
事務局(磯野)	レスキュー体制の表もあるので、併せてご確認いただければと思う。
松本会長	レスキューのことだが、北本は比較的災害に強い土地柄である。そのため、周辺地域も含めた「文化財の防災基地」的役割を果たせる可能性がある。そのことを念頭に置いて記述するとういと思う。
小松委員	市民活動交流センター(旧栄小学校)がまだスペースに余裕がありそうなので、そういう使い道も考えられると思う。
事務局(大平)	4 その他 地域計画策定に係る今後のスケジュールを説明。 5 閉 会 秋葉副会長欠席のため、坂口委員から閉会の言葉 事務局により閉会
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきを証するために署名する。 令和 7 年 11 月 6 日 松 本 富 雄	